

もっとアフリカを知り、経済、技術、文化の交流を促進します



## 月刊アフリカニュース

2015年 1月 15日 No. 27

目次	ページ
在外公館ニュース	
<a href="#">=今月の読みどころ=</a> . . . . .	2
* 以下各国クリックしていただくとオリジナルにジャンプします	
<a href="#">アンゴラ月報</a>	
<a href="#">ザンビア経済概況・月報</a>	
<a href="#">ジンバブエ月報</a>	
<a href="#">セネガル月報</a>	
<a href="#">ナイジェリア・ビジネス・ニュース</a>	
<a href="#">ベナン月報</a>	
<a href="#">マラウイ月報</a>	
<a href="#">モロッコ政治月報</a>	
資料解説	
<a href="#">特別ニュース</a> . . . . .	6
<a href="#">お役立ち情報</a> . . . . .	7
特別寄稿	
<a href="#">「スワヒリ語スピーチコンテスト傍聴記」</a>	
アフリカ協会 特別研究員 鈴木 優梨子 . . . . .	7
<a href="#">アフリカ協会事務局からのご案内</a> . . . . .	11



アンゴラ月報 (2014年11月)

●鉄道網の拡張案を発表

15日、ルバンゴにて行われた鉄道セミナーにおいて、トマス運輸大臣は鉄道網の拡張計画を発表した。今後4年間で国内3路線を連結し、また、ルアンダ新空港からルアンダ湾に伸びる路線、ルアンダ＝ウイジェ＝ンバンザコンゴ間を結ぶ路線、ベンゲラ＝ラウーカ＝ザンビア国境東部を結ぶ路線の建設・拡張工事を行うこととなる (JA 11/16)。

●主要経済指標

物価：統計局 (INE) が11月に発表した10月期のインフレ率は7.48% (対前月比0.29%) で、7月期以降4期連続で上昇。月間物価上昇率は0.68%。

●日本企業関連情報

4日、アントニオ・ヌーネス Angola Cables 社 CEO は、NEC との間で南大西洋海底光ファイバーケーブル敷設事業に関する1億6,000万ドルの契約に署名した。同事業により、アンゴラ＝ブラジル間 (約6,000km) が光ケーブルで結ばれる。2016年末に操業の見通し (JA 11/5)。

●27日の民間投資庁 (ANIP) の発表によれば、今月、ANIP は15案件の新規民間投資契約を結び、総額約1億1,250万ドルを計上した。また、本年の契約総額は政府目標の40億ドルを上回った。 (AH 11/28)。

[http://www.angola.emb-japan.go.jp/document/report/201411angola\\_report.pdf](http://www.angola.emb-japan.go.jp/document/report/201411angola_report.pdf)

ザンビア経済概況・月報 (2014年11月)

1. “ザンビアへの資金提供、減少” (Times、5日)
2. “ザンビア中央銀行「クワチャ通貨は比較的安定な状態を維持」” (Post、5日)
3. “ザンビアは世銀が定める「ビジネス環境指数」の順位を下げる” (Times、6日)
4. “ザンビアは向こう10年間、メイズを輸出” (Post、6日)
5. “ザンビア、引き続き投資を求める” (Daily Mail 7日)
6. “ブランソン氏のザンビア訪問、ZDAを活気づける” (Post、Daily Mail、Times、10日)
7. “チサンガ ZRA 長官「ザンビア政府はMFEZsを増加させる」” (Daily Mail、13日)
8. “チクワンダ財務大臣「ザンビア政府は鉱山への還付を制約」” (Post、14日)
9. “ザンビア政府、再生可能エネルギーの関税に取り組む” (Times、18日)
10. “ザンビア中央銀行「ザンビアは6.5%の経済成長率を維持」” (Daily Mail、20日)
11. “ザンビア政府、エネルギーセクターを自由化” (Daily Mail、26日)
12. “日本政府、さらなる支援を約束” (Times、27日)

<http://www.zm.emb-japan.go.jp/ja/keizai/Macro.Report.11.2014.pdf>

ジンバブエ月報 (2014年11月)

●ジンバブエ医療専門家派遣に係る協議

AU は加盟国から全体として2,000名の専門家を西アフリカに派遣することを計画してお

り、ジンバブエに対し、ギニア、シエラレオネ及びリベリアでエボラ出血熱対策に係る医療専門家を少なくとも 20 名派遣するよう要請した。同派遣要請に対し、当国政府は当国の専門家から非常に多くの前向きな反応があった旨発表した。チメザ保健・児童福祉副大臣は、(派遣に係る) 協議は進行中である旨発言した。(11 月 8 日付当地サタデーヘラルド紙)

●物価上昇率・インフレ率 (10 月)

10 月のインフレ率は、前月比 0.20 ポイント減の-0.11 となった (9 月インフレ率: 0.09%)。消費者物価指数は 2012 年 12 月を 100 とした場合、前月比 0.11 ポイント減の 100.32 であった。(ジンバブエ統計局ホームページ)

●2015 年度予算案の発表

27 日、チナマサ財務大臣は 2015 年度予算案を議会に提出した。同予算案によると、本年及び来年の当国経済成長率はそれぞれ 3.1%、3.2%となる見込み。今年度 1 月～10 月の歳出は 34.2 億ドルで、このうち 92%が経常支出で、今年度の歳出は 41.2 億ドルとなる見込み(そのうち 80.1%が人件費)。来年度予算の歳出は 41.1 億ドルで、内訳は全体予算の 81%を占める公務員人件費 33.2 億ドル、事業運営、債務返済、開発計画支出費 7.9 億ドル。また、現地化法履行についての変更に係る法案及び経済特区に係る法案を議会に提出する予定(ジンバブエ財務省ホームページ)。

<http://www.zw.emb-japan.go.jp/home/images/201411.pdf>

セネガル月報 (2014 年 11 月)

●ジョヌ首相による所信表明演説 要約

<http://www.sn.emb-japan.go.jp/pdf/jp/sn/20141204.pdf>

●エボラ出血熱の流行に伴う国境閉鎖問題

9 日、サル大統領はエボラ出血熱発生国との国境閉鎖措置に関し、ECOWAS の勧告を遵守する旨発表した。また 同大統領は、海路の国境閉鎖は 10 日前から撤廃されており、今後この撤廃措置は段階的に空路にも拡大される旨述べるとともに、これまでの国境閉鎖措置はエボラ出血熱拡大防止観点から正当なものであった旨強調した。(9 日 APS)

●26 日、国民議会において 2015 年度予算の審議が開始された。

— 予算総額は前年比 5.02%増の 2 兆 8,690 億 3,200 万 Fcfa となる予定。同予算は 2%のインフレ率、5.4%の経済成長率、国内総生産 8 兆 2,342 億 Fcfa (前年比 2.8%増) 等のマクロ経済予想に基づいて策定された。

— 歳入の 71%を税収 18%を贈与及び借款が占める。

— 歳出総額 2 兆 7,767 億 8,200 万 Fcfa のうち、経常支出は 1 兆 8,145 億 9,600 万 Fcfa (うち、5,980 億 1,000 万 Fcfa が債務返済、5,100 億 Fcfa が公務員等給与、7,065 億 8,600 万 Fcfa がその他に充てられる)、投資支出は 9,621 億 8,600 万 Fcfa (うち 5,571 億 8,600 万 Fcfa が政府予算から、4,050 億 Fcfa が海外からの資金移転によって賄われる)。

<http://www.sn.emb-japan.go.jp/pdf/jp/sn/geppou1411.pdf>

ナイジェリア・ビジネス・ニュース (2014 年 11 月)

在ナイジェリア日本大使館は、現地報道をまとめたナイジェリア・ビジネス・ニュースを大使館のホームページに掲載しています。下記リンクをクリックしていただきますと、PDF

ファイル形式で、ナイジェリアにおける経済関係のニュース（英語）一覧をご覧ください。

<http://www.ng.emb-japan.go.jp/j/nigeriabuznews.html>

#### ベナン月報（2014年11月）

- 10月29日、民主勢力グループ（Forces démocratiques）が、恒久電子化選挙人名簿（LEPI）に代わる選挙人名簿の作成、及び早期の地方選挙実施を求めて、デモ行進を実施した（3日、Le Matinal紙）。11月10日、ヤイ大統領は、LEPIに関する国民向けメッセージを発表し、12日からLEPIの補完登録作業を開始する予定である旨、及び12月17日にCOS/LEPIが補完登録作業の結果を踏まえたLEPIを発表する予定である旨伝えた。その後、LEPIの補完登録作業開始は、11月17日に延期された。（11日、La Nation紙）
- 8日、ミレニウム・ビレッジ・プロジェクトの一環で、ダンボ市に市場建物が建設され、ドゥ・スザ（M. Marcel Alain de SOUZA）開発・経済分析・未来計画大臣が落成式を実施した。（11日、L' Autre Quotidien紙）
- 15日、アフリカ開発銀行の支援で実施される「ウエメ川流域農業インフラ建設支援計画」が開始し、ヤイ大統領がプロジェクト開始式に出席した。支援総額は、355億FCFAに上る。（17日、La Nation紙）

<http://www.bj.emb-japan.go.jp/j/pdf/geppo%20201411.pdf>

#### マラウイ月報（2014年11月）

- 中国による医薬品等の供与及び競技場建設支援  
10月30日、張駐マラウイ中国大使は、カリラニ保健大臣に1.5億クワチャ相当の医薬品及び医療器具の引き渡しを行った。供与された医療器具には、心電計、電動吸引器、放射線機器等が含まれており、リロングウェのカムズ中央病院及びムズズ中央病院にて使用される予定。また、現在中国からの294億クワチャ（7000万米ドル）の借款支援を受け、リロングウェにおいて競技場建設が進められている。同競技場はオリンピック仕様に設計されたものであり、総合的陸上競技場、自然芝のサッカーコート、VIPラウンジ、売店及び展示室、プレス・ギャラリー、処置室、駐車場等を備える予定。（11月1日、マラウイニュース紙46面及び11月3日、ネーション紙3面）
- ナカラ回廊鉄道建設  
ヴァーレー社によるナカラ回廊鉄道建設について、マラウイ国内の17本の鉄道橋を補強する当初の計画が取り消され、同補強計画は実施されていないことが発覚した。マラウイ・エンジニアリング協会（Malawi Engineering Institution）は、同計画の取り消しは、鉄道橋の質の低下につながるとし、人命や設備自体の寿命への影響を懸念している。チルジ運輸公共事業省次官は、鉄道橋補強に関する当初の計画への変更については何も連絡を受けておらず、必要であれば検証を行うとした。また、現時点ではヴァーレー社が契約違反をしたか否かは断言できない旨述べた。（11月22日、ウィークエンドネーション紙1面）
- クワチャ安の継続  
11月4日、クワチャは市中銀行の為替レートでは1米ドル520クワチャまで下落した。過去2ヶ月で20%程下落しており、ビジネス等に影響を与えている。マラウイ商工会議所は、

中央銀行による政策の失敗であると非難している。

●IMF ミッションによる拡大クレジットファシリティ検証

10月29日から11月13日まで、IMF 代表団が対マラウイ信用拡大ファシリティ(ECF)の検証のためマラウイを訪問、財務大臣他と協議を行った。代表団によれば、2014年の経済成長率は5~6%となると予想され、また、継続中のクワチャ安は、現在外貨収入が少ない時期にあるという季節要因によるものもあるが、ドナーからの財政支援が一部停止されていることも影響しているとのこと。

[http://www.mw.emb-japan.go.jp/JapaneseSite/20141220\\_malawi\\_geppo%20.pdf](http://www.mw.emb-japan.go.jp/JapaneseSite/20141220_malawi_geppo%20.pdf)

モロッコ政治月報 (2014年11月)

●中国・モロッコ関係

11月3日から4日まで、俞正声主席がモロッコを公式訪問し、モハメッド6世国王を謁見し、ベンキラン首相他と会談した。

28日、北京でモロッコ経団連とモロッコ銀行連合の共催により、第1回モロッコ・中国経済フォーラムが開催され、モロッコ政・財界要人の他両国投資家550人以上が出席。

●韓国・モロッコ関係

同25日、鄭烘原韓国国務総理はベンキラン首相と首脳会談を行ったが、モハメッド6世国王謁見は同国王の健康上の理由で中止となった。

●第5回世界企業家サミットの開催

20日から22日まで、第5回世界企業家サミットがマラケシュで開催された。同サミットは2009年にオバマ米大統領の主導により、米国とアラブ・アフリカ諸国を中心とした世界各国との経済関係強化を目的として立ち上げられた。今回は、米国からバイデン副大統領他、モロッコからはほぼ全ての閣僚と民間セクターの要人が出席。

●6日、モハメッド6世国王は第39回緑の行進記念日にあたり、国民に対する演説を行った。

演説の中で国王は、モロッコ政府は西サハラ地方がもたらす税収1DH 当たりにつき7DHを投資しており、モロッコが西サハラの資源を収奪しているというのは神話に過ぎないと強調した。また、西サハラ地方に特化した開発モデルと地方分権化改革の実施を表明した他、従来からのモロッコの立場を述べた。

(注：緑の行進とは、1975年11月6日にハッサン2世国王(当時)の主導で行われた、モロッコ人35万人による西サハラ地域への「平和的」行進)

●28日から29日まで、カサブランカで湾岸諸国・モロッコ投資フォーラムが開催された。カレド・アルアブディ イスラム民間部門開発公社総裁は、モロッコにおける諸改革は、湾岸諸国が対モロッコ投資を今後10年間で1,200億ドルまで増加するに十分なものであると述べた。

<http://www.ma.emb-japan.go.jp/pdf/seijigeppo/Seijigeppo201411.pdf>

\*“Tunisia Wins Again : New York Times”,

The Editorial Board, Dec. 25th, 2014

[http://www.nytimes.com/2014/12/26/opinion/tunisia-wins-again.html?emc=edit\\_th\\_20141226&nl=todayshadlines&nid=6883819&r=0](http://www.nytimes.com/2014/12/26/opinion/tunisia-wins-again.html?emc=edit_th_20141226&nl=todayshadlines&nid=6883819&r=0)

“Why Tunisia's election matters : Christian Science Monitor”

The Editorial Board, Dec. 22nd, 2014

<http://www.csmonitor.com/Commentary/the-monitors-view/2014/1222/Why-Tunisia-s-election-matters>

「アラブの春の」発火点となったチュニジアで不安定な政権が続きましたが、今回新しい憲法の下で、平和裏に民主的に Essebsi 大統領が選ばれました。国民は安定と経済改革を強く望んだ結果であると判断されます。アラブの春に寄せられた大きな期待が再び膨れ上がってきます。

\*“Ebola in graphics The toll of a tragedy”, Economist, Dec. 29th 2014

[http://www.economist.com/blogs/graphicdetail/2014/12/ebola-graphics?fsrc=nlw|new\\_e|29-12-2015](http://www.economist.com/blogs/graphicdetail/2014/12/ebola-graphics?fsrc=nlw|new_e|29-12-2015)

2013年12月にギニアで最初のエボラの発生が報じられてから一年が経ちます。隣国のシエラレオネ、さらにリベリアと広がり、6月末には759人の患者と467人の死者が報告されました。12月21日までに19,497人の感染者と7,588人の死亡が報じられています。リベリアとギニアの状況は安定しているように見えますが、シエラレオネでは増加が報告されています。この記事は過去一年の状況をグラフで理解しやすく示しています。

\* “The Climate Wars Are Already Here”, Foreign Policy, Dec. 17th 2014

アフリカ大陸で第3番目に長いニジェール河は、西アフリカの大国マリ、ニジェール、ナイジェリア3ヶ国を流れ、農業、牧畜を潤してきましたが、気候変動と急増する人口増、インフラの不足等は食料、燃料、水の自給自足の限界を超え、貧困を加速し、住民間の小競り合いが増えてきています。ボコハラムのような過激派を生む一因ともなり、この状況が続けば、この地域の紛争が拡大し、西アフリカ、さらには、アフリカ全体の安定に重大な脅威となろう、との研究結果も報告されています。この辺りの事情を理解しておくことも大切と思われます。

[http://foreignpolicy.com/2014/12/17/niger-river-basin-climate-wars-are-already-here/?utm\\_source=Sailthru&utm\\_medium=email&utm\\_term=%2AEditors%20Picks&utm\\_campaign=2014\\_EditorsPicks\\_Promo%20NYU17%2F12](http://foreignpolicy.com/2014/12/17/niger-river-basin-climate-wars-are-already-here/?utm_source=Sailthru&utm_medium=email&utm_term=%2AEditors%20Picks&utm_campaign=2014_EditorsPicks_Promo%20NYU17%2F12)

\* “Tanzania joins Africa’s great GDP revision”, Dec.14th 2014

東アフリカのケニア（10月）、タンザニア（12月）、ウガンダ（12月）がGDPの基準年を改訂しました。その結果、それぞれのGDPは、ケニアは25%、タンザニア32%、ウガンダ13%高くなりました。今後GDPの値は遡って修正されることになるでしょう。

<http://blogs.ft.com/beyond-brics/2014/12/19/tanzania-joins-africas-great-gdp-revision/>

## お役立ち情報

\*The World Development Report 2015: Mind, Society, and Behavior.

世銀 2014年12月

<http://www.worldbank.org/en/publication/wdr2015>

本報告書は、開発の進め方を新たな視点から捉えるため、意思決定の3原則である、自動的な思考、社会の影響を受けた思考、メンタル・モデルによる思考について概要を説明しています。注目すべきは、世銀が新古典派の自由経済、市場機能至上主義がら路線変更を示しているのではないかとと思われることです。

\*Financing the post-2015 Sustainable Development Goals A rough roadmap Overseas Development Institute 2014年12月22日

<http://www.odi.org/sites/odi.org.uk/files/odi-assets/publications-opinion-files/9374.pdf>

MDGs (ミレニアム開発目標) は2015年に終了します。その後継目標として、SDGs(継続可能な開発目標)が、国連を中心として、多くの国際的な場で議論されてきました。本報告書はこれらの議論を受けて、SDGsの枠組みと、特に途上国の開発の資金供給の在り方について焦点をあて、提案しています。SDGsを巡る議論とあり方について良い参考資料です。

## 特別寄稿

「スワヒリ語スピーチコンテスト傍聴記」

アフリカ協会 特別研究員 鈴木 優梨子

## 招待状を受け取って

去年11月中旬、アフリカ協会事務局から「今月30日に八王子の創価大学でスワヒリ語のスピーチコンテストが開催されるそうだが、参加するか否か知らせてほしい」という連絡があり、驚きと喜びを感じつつ「もちろん参加します!」と即答しました。協会としては、当方から誰かが参加することが望ましいけれど、全然スワヒリ語を解さない人が行ってもあまり意味が無いだろうから、分かる人が行くことが望ましいのではないかと、ということでした。喜びというのは、英語、フランス語、スペイン語、ポルトガル語、中国語等ならいざ知らず、あまりメジャーではないスワヒリ語を学ぶ人がそんなに多いのだろうか、日本の若者も変わったものだ、という感慨からの喜びで、驚きというのは、私がこれまでそういうコンテストが存在することを全く知らなかったことへの驚きでした。これはもう、行って実際に見る以外無いと思い、期待で心が弾みました。

## スワヒリ語とは

ご存じの方も多いかと思いますが、スワヒリ語はバントゥ語の一つで、タンザニア、ケニア、ウガンダ等の主に東アフリカ11か国で話される言語です。タンザニア、ケニア、ウガンダで公用語になっていますが、現在最も普及しているのはタンザニアで、小学校教育は

スワヒリ語で行われています。スワヒリ語を話す人口は、全アフリカで 5 千万人程度とする見方もあります。日本ではあまりアフリカのことが知られていないこともあり、スワヒリ語を表現力の幅が狭い、原始的な言語ではないかと考える人もありますが、これは全くの誤解です。私がスワヒリ語を話すと知ると、「数字は 1 から 10 までは数えるけれど、それ以上は」沢山「と言うのでしょうか？」などと言う人も多数いました。こういう人たちには、「いや、タンザニアでは国会の討論や予算書もスワヒリ語です。文学作品もあります」と答えると、あれ、そうだったの？というような表情になります。

どんな言語も学ぶ際の一般的な難易度を測るのは難しいことですが、只単語を羅列して大体の意味を伝えるのではなく、文法的に正しいスワヒリ語を読み書きするのは、簡単ではありません。一つの理由は、名詞のグループが多いことです。すなわち、ドイツ語であれば 3 種類しかない、名詞グループが 10 以上あり、それぞれの単数形・複数形の接頭語部分が異なるなど、覚えなければならない変化・活用が多いからです。時制も種類が多く、例えば仮定法過去完了などという英語の場合のような形もあります。

## スピーチコンテストの当日

今回お招きのあったコンテストは、正式には「第 24 日回創価大学創立者杯・スワヒリ語スピーチコンテスト」と言い、創価大学の学生組織の一つである、「パン・アフリカン友好会」が主催し企画・実施するものです。参加者は同大学に限るわけではなく、スワヒリ語を学ぶ大学生ならだれでも参加できるそうです。

当日は JR 八王子駅で待っていてくれた学生が案内してくれて、創価大学の会場に行きました。会場に来ていた人たちは、コンテストに参加する学生、コンテストの企画実施団体である、同大学のパン・アフリカン友好会のメンバー、来賓数名、審査員数名と後は一般聴衆（参加各大学の学生等）でした。私は「来賓」ということだったので、恐縮しました。審査員は、スワヒリ語を話すアフリカ諸国の在京大使館員、ジャーナリスト等と日本人 1 名でした。このコンテストは 1970 年代に始まり、今年が 24 回目だそうですので、時に休むとしても大体最近では毎年開かれているようです。

学生の 2 名の司会者による案内や出場者紹介等もスワヒリ語で行われ、いよいよ 6 名の学生によるスピーチが始まりました。与えられている時間は 4 分だそうです、これは長いのか短いのか、私にはよくわかりませんでした。

創価大学の他、都内と大阪からの 2 つの大学からもそれぞれ 2 名が参加し、計 6 名の参加者（女性 5 名、男性 1 名）がそれぞれスピーチを行いました。そのテーマは「タンザニアでの人々との交流経験」「ケニアで感じたこと」「あるアフリカ人の作家について」など、いずれもアフリカに関するテーマでした。4 名が紙を見ながら読み上げる形で話し、2 名は紙を持たずにスピーチをしました。スワヒリ語の内容の文法上の正確さ等は、ある点に達していました。6 名のうち 5 名がタンザニアまたはケニアに数か月以上の滞在または留学の経験を持っていましたが、これは一昔前には考えられないことで、驚きました。

おや？と思ったのは、スピーチ後の「審査員による質問とそれへの応答」のところでした。出場者は皆ちょっと不安そうに、審査員からの質問を待ち、それに答えようと努力していましたが、すぐには的確な返事が出来ないケースもあり、作文部分の堂々とした文法上の



正確さに比べて、聞き取りと即座のスピーキングが苦手なケースもあったように見えました。(これについて、後刻審査員より「(あまり緊張せずに)聞き取れない質問については、平易なスワヒリ語で言い直していただけますか?など、アフリカにいたとき、通常のシチュエーションでもそのようにしていたと思うが、そういうように聞き直せばいいだろう」と助言していましたが、私もその通りだと思いました。これは、日本の英語教育現場と似ていて、ヒアリングとスピーキングは「読み書き」よりも難しいということなのでしょう。6名のスピーチが終り、審査の結果、優勝者等3名が表彰されました。

審査員による講評の後、「交流会」が開かれ、ここでは主催クラブの1年生がスワヒリ語の歌やダンスと共に来場者を迎えてくれ、茶菓とともに歓談しました。コンテストのプログラムやスピーチも印刷・配布され、全体に企画と実行はハイレベルであったと思いました。こんなに多数の学生が「パン・アフリカン友好会」に入っていること、またスワヒリ語の勉強をしている学生が私の予想以上に多いこと、などに感心して、帰宅の途に着きました。

### 人が他の人に何かを伝えるとはどういうことか

そういうわけで、感心することばかりだったのですが、一つだけ学生たちに注文をつけるとしたら、「人が人に何かを伝えるとはどういうことか、何が大切か」という基本についてもう少し考えてはどうだろうか、ということです。確かにスワヒリ語のような、日本の普通の生活とはかけ離れた言語を習得し、長い文にともかく自分が言いたいことをまとめ、それを多数の人の前で発表するということは、かんたんな努力ではできないと思います。しかし、「文法的に間違いの無い文を作り、それを暗記し、発表すること」の全てを高いレベルで行うことに注意が向くせいか、最も大事と思われる「一番伝えたいところをゆっくり、強く発音する」ということの練習があまりなされていないように思われました。

これはちょっと、私のスワヒリ語習得の状況とも関係しているのですが、1964年の東京五輪の時、英語の公式通訳になった私は、ほとんどのアフリカの国が独立後初めてのオリンピック出場を果たし、選手たちが嬉々として活躍するのを目の前で見て、従来思っていた「暗黒大陸」というアフリカのイメージが全く塗り替えられました。たまたまタンザニアの選手団と親しくなったこともあり、「あの明るさの根源とはいったい何だろう?もっと理解したい」と思い、スワヒリ語の独学を始めるとともに、歴史も学び始めました。その後念願かなってある職を見つけ、タンザニアに行ってから、絶えず人々の中でスワヒリ語を学びました。自分が強く表現したいところは大きな声で、ゆっくり発音し、とぼしてもいいところはさっと喋る、などの習慣はその時身に付けたものです。

### ジュリアス・ニエレレ (初代) 大統領の演説の仕方

私が到着した直後の1971年4月、タンザニアは「住宅の国有化」をしました。大きな住宅や都会のビルが国有化され、国によって管理されるようになったのです。首都ダルエスサラームの主な通りは「Mali ya umma! (共同体の財産だ)」と大声で叫びながら行進するデモ隊であふれました。その数日後、ジャングワニという野原でニエレレ大統領がスピーチ

をするというので、私は出かけました。ニエレ大統領は、時には雄弁な政治家のように、また時には日本の落語家のように、大声から急に小声になって皆の注意を集めたり、非常にテクニックを駆使しながら、民族主義、社会主義の道を歩むタンザニアがまた一つ、重要なところを超えたことについて、分かりやすく説き、民衆はやんやの喝采でこれにこたえました。また、大事なことは子供にもきちんと教えるように、ということをお願いしたかったので、**「おらのばあ様が言うには、ジュリアッシー、これこれをしろ、とのことだった・・・」**などというところは、ジュリアスと発音せず、ジュリアッシーとゆっくり、大きく発音し、自分の幼時のことをさらけ出して親しみを誘う話しをして、皆も笑いながら聞いていました。(ニエレ大統領の名は「ジュリアス・カンバラゲ・ニエレ」です) スワヒリ語は特にこういう「聴かせどころ」を前面に出して、面白く、あるいは分かりやすいように話すとき、すばらしい印象を生み出します。「正しい文を作文し、それをどう正確に読むか」よりもむしろ、「どこをゆっくり、強く読んで強調するか」を考えつつ、演劇のつもりで表現する練習を重ねるとよいのではないのでしょうか。またそれには、「自分が最も伝えたいところ」を絞り込んで、他の部分はそれへ向かう前奏曲のような働きをするということをまず十分理解し、どこを強調するか研究することも効果的でしょう。

今は日本でもBBC、ヴォイス・オブ・アメリカ他の放送やホームページで、毎日居ながらにしてスワヒリ語に接することができます。生きたスワヒリ語を聴き、話し、読み、書くことは以前よりも短時間で身につくはずで、あと必要なのは、「自分という人間が他の人に何を伝えたいか」を知るとともに、そのためのちょっとしたテクニックを身に付けることではないかと思いました。

## 最後に

24 回もこのような努力が重ねられてきたことは、大変注目に値することであり、スワヒリ語を学ぶ学生にとって大きなチャレンジ、目標となってきたことと思います。このことは、もっと知られてよいのではないのでしょうか。この経験を友人に伝えたくなり、数人に話したところ、「首都圏のある有名私立高校で、課外授業としてスワヒリ語を教えている」ということも聞きました。これはとても有意義なことだと思います。私が出た高校では、1年と2年の時、放課後の課外学習（無料）として、ドイツ語とフランス語を週2時間教えていました。私は2年間ドイツ語を履修したのですが、大学でもやったドイツ語の学習よりも、この高校生のときの学習の方が印象に残っています。先生は教えるだけで評価はしないで、伸び伸びと教えて、ゲーテの詩を毎回朗朗と読み上げる先生もいました。

スワヒリ語を教える高校が日本にあること、スワヒリ語のスピーチコンテストを20年以上開催してきた大学があること、今後のスピーチコンテスト参加を目指してスワヒリ語に磨きかける大学生が居る事、いずれもこのコンテストをきっかけとして、初めて学んだことでした。アフリカ人の審査員の人たちも、日本でこのようなコンテストが開催されていることは、大きな驚きと喜びであったと思います。スワヒリ語で考えを述べる楽しさを知る日本の若者が増えていくことを期待したいと思います。



## アフリカ協会事務局からのご案内

### 12月15日～1月14日

12月17日 「第12回大使を囲む懇談会」

前南アフリカ駐在吉澤大使を囲み、同国の政治・経済状況、  
対外関係などについて説明を受けるとともに、同国の法制度や  
治安状況、エネルギー資源、BRICSの一員としての立ち位置等  
広範囲に亘る意見交換を行った。

<http://www.africasociety.or.jp/index.php/archives/1220>

12月19日 第6回理事会(書面)開催

法人2社及び個人2名が新たに会員として承認された。

12月26日 機関誌『アフリカ』冬号の発行

<http://www.africasociety.or.jp/index.php/archives/category/magazine>

### 今後の予定

1月15日 講演と対談「エボラ出血熱をめぐる現状と対策」

進藤奈邦子氏（医学博士、WHO メディカルオフィサー）による  
講演と対談、司会：松浦会長

アフリカ協会、日仏会館の共同主催、13時30分から日仏会館にて

1月16日 パネルディスカッション「日-EU 経済連携協定」

司会：松浦会長

日仏会館主催、18時30分より日仏会館にて

1月20日 新春対談「アフリカ経済の魅力と課題」

モロッコ王国及びアンゴラ共和国特命全権大使を迎え対談

日本モロッコ協会主催、アフリカ協会後援

13時30分より、国連大学3階「ウ・タント国際会議場」にて